

68 Tl運動負荷心筋SPECTでの慢性完全閉塞性病変（CTO）の経時変化（貫壁性心筋梗塞例での検討）

武藤 浩、山崎純一、細井宏益、石黒 聡、山科久代、内藤勝敏、最所賢一郎、宇野成明、森下 健（東邦大一内）

CTO特に側副血行路を有する貫壁性心筋梗塞症例に対しTl心筋SPECTを経時的に行ない臨床経過特に梗塞後狭心症（PIAP）との関連及びTl心筋SPECT上の変化について検討した。対象はCTOに対しインターベンション非施行例14例。再分布例は10例に認められ、うち5例がPIAPを発症した。しかしその再分布は完全再分布は皆無であり、梗塞部周辺部の再分布や不完全再分布であった。経時変化においては視覚的評価、定量評価において改善は認められなかった。Tl心筋SPECT上本条件を満たす貫壁性梗塞症例はViableな心筋の評価にて完全再分布は認められず、またその経時変化においても変化は認められず、今後本症例の再灌流療法の是非について考慮を要する。

69 ^{201}Tl 持続静注による心筋バイアピリティ評価の臨床的有用性

西島博満、今村義浩、福山尚哉（松山赤十字循環器）

負荷 ^{201}Tl シンチで陰影欠損を示す17例に $^{99\text{m}}\text{Tc-MIBI}$ （740MBq）1回静注と ^{201}Tl （111MBq）の4時間持続静注を施行、4時間後のdual SPECT像での ^{201}Tl の"fill-in"の有無により、2群間で血行再建術前後の左室造影と ^{201}Tl シンチの以下の指標を比較した結果、本法の有用性が示された。

	fill-in(+)群(n=10)		fill-in(-)群(n=7)	
	術前	術後	術前	術後
Wall Motion	7.6±1.3	4.1±0.9**	5.9±1.5	6.3±1.5
LVEF	59±6	64±4	57±5	59±5
Defect Score	32±3	20±3**	29±3	22±3
Extent Score	43±7	25±7**	35±8	28±8
Severity	51±13	28±12*	41±12	25±10

* p<0.05 ** p<0.01

70 PTCA後の負荷TL心筋シンチグラムの至適施行時期について—POBAとSTENT 例を比較して

長 慎一、阿部正宏、岩沢博人、藤田全健、小川 隆、白石裕盛、栗原正人、阿部敏弘、（東医霞ヶ浦循環）、永井義一（東医八王子循環）、伊吹山千晴（東医大2内）

PTCA後100例の3および6カ月の負荷TL心筋シンチグラム（TL-Ex）をPOBA 50例（P群）とSTENT留置50例（S群）に分け、同時期の冠動脈造影と比較（後ろ向き試験）。P群：3カ月のTL-Exで陽性8例、再狭窄（実測51%以上）15例、TL-Ex陽性の8例を含む10例は最小血管径（MLD）1.0mm以下のためRe-PTCA。6カ月のTL-Exで陽性4例、再狭窄5例、TL-Ex陽性の4例はRe-PTCA。S群：3カ月のTL-Exで陽性は無、再狭窄2例、Re-PTCAは無。6カ月のTL-Exで陽性8例、再狭窄10例、TL-Ex陽性の8例はRe-PTCA。TL-Ex至適施行時期はP群で3および6カ月、S群で6カ月である。